



オヴァ・ママの会

村の養護施設を

地域の子どもたちの交流の場に

26年続いた民族紛争、2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波災害などにより、多くのホームレスが生まれたスリランカ。南部マータラ県でホームレスの子どもたちの施設を支援するNGO「オヴァママの会」は、地域との共生を目指して新たな事業を立ち上げた。

絵を通じて心の傷を訴える

今年もまた、名古屋博物館(愛知県名古屋市中区)でスリランカの子どもたちが描いた絵が展示される。今回で15回目を迎えるこの絵画展示を行うのは、オヴァ・ママの会。スリランカ南部、マータラ県ケカナドゥラ村にある養護施設「オヴァ・ママチルドレンビレッジ」を支援するNGOだ。

絵画展の作品は、施設で生活する子どもたちが描いたもの。会場には、絵一枚ごとに解説が添えられる。絵そのものの紹介ではない。絵に表れる子どもたちの「ココロ」を、日本の画家が分析したものだ。

「施設の子どもたちは皆、悲惨な過去を背負い、心に傷を負っています」

そう話すのは、オヴァ・ママの会で事務局を務める赤羽一郎さんだ。

「26年続いた内戦や2004年のスマトラ沖大地震・インド洋津波災害で両親

こにはさまざまなメッセージが隠されているのだ。

心理分析の結果は、施設で子どもたちの世話をするアンマー(寮母)に伝えられ、一人一人の子どもたちのココロの傷を癒やすサギとなっている。

「オヴァ」と「ママ」の末永く続くフレンドシップ

現在、施設では23人(4～15歳)が生活している。健康や社会性、学力に問題を抱える子がほとんど。日々の生活でそれを克服していくため、絵や音楽、ダンス、国語などの先生がやって来て、子どもたち

と過ごす。家庭教師付きの恵まれた暮らし。しかしこれが、思わぬ問題を引き起こしていた。

ケカナドゥラ村は、決して豊かとはいえない農村地帯。そこに日本のNGOの支援でホームレスの子どもたちを保護する施設ができた。「それだけでも拒否反応がありました。当初は、ホームレスの子どもたちの面倒は見ない、と入学を拒否した小学校もあったほどです。そして地域の人々の施設を見る目も特別でした。地元の子は貧しくて3食満足に食べられないのに、いわば浮浪児がきれいな衣服を着て、きれいな建物の中で暮らし、おいしいものを食べているという、やっかみや嫉妬に似た思いで見えていたのです」。

何とかして、地域と施設の間に横たわる溝を埋めなければならぬ。そう考えたオヴァ・ママの会は、ケカナドゥラ村で暮らす施設の外の子どもたちへ奨学金を贈る取り組みを始めた。その資金として、JICA基金が活用されている。スリランカでは、小中学校の学費は無料。しかし、貧しさのために靴や服が買え



オヴァママの会は、年に数回スタディーツアーを実施。日本から多くの学生が訪れている

ず、学用品もそろえられずに通学できない子どもが多くいる。会が支給した奨学金は、地域の人々で構成される委員会が管理。現在、約150人の子どもたちを対象に、奨学生を選定する作業に入っている。また学習に必要な文房具も配布し、施設内にある図書室も自由に使用してもらう。そのために児童書も充実させた。つまり、施設の子どもたちとの交流を促進する目的もある。

「オヴァ・ママチルドレンビレッジができて16年、施設から社会に巣立っていった子どもは120人を超えました。本来、スリランカの問題はスリランカの人たちが自身が解決していくべき。いずれ彼らが大人になり、村の人々と一緒に生きてこの施設を支えてくれればと思います」

現地語のシンハラ語で、オヴァは「あなた」、ママは「わたし」を意味する。

「私たちはスリランカの人たちと、支援する『支援される』という関係でなく、新しい関係になりたい。友達として、仲間として、いつまでも続くつながりを築きたいのです」



1994年に建設されたオヴァ・ママチルドレンビレッジ。当時は北部で激しい内戦が継続中で、戦場から最も遠い南部のこの場所が選ばれた

オヴァ・ママの会についてのお問い合わせは事務局まで。会員には定期的に機関紙を送付。
〒470-0155 愛知県愛知郡東郷町白鳥
4-4-5-201-101 赤羽方
TEL/FAX: 0561-39-2608
Email: ginge46@attglobal.net

を亡くしたり、貧しさから養育を放棄された子どもたちが保護され、この施設に収容されています」

オヴァ・ママの会は、「ホームレスの子どもたちが安心して暮らせる養護施設をつくりたい」という、あるスリランカの僧侶の情熱に促されて92年に設立された。当時、14歳以下の子どもたち400万人のうち、約1割の40万人もが内戦などの影響でホームレスとして暮らしていた。

オヴァ・ママチルドレンビレッジには、そうした子どもたちが各地から集まってくる。「私たちが訪ねるといつもニコニコして迎えてくれます。人懐こく、甘えてくる子もいます。でも話していると、どうしても入り込めない深い闇があることに気付きます」。

絵には、そんな彼らのココロの闇が表れてくる。人の顔を黒く塗りつぶしてしまふ子、山並みをなぜか白く表現する子、そして水に浮かぶ人や家を描く子。そ



この絵を描いた少年は、両親と兄弟を目の前で殺された。顔が塗りつぶされた人物は、亡くなった4人の兄弟。過去のつらい思い出から解放されていないことが表れている



子どもたちの自由な発想に任せ、それぞれ思い思いに絵を描く

あなたの小さな一歩から始まる国際協力 世界の人びとのためのJICA基金

JICAでは、国際協力に関心のある日本の皆さまからの寄付を、開発途上国の貧困削減や環境保全への取り組みに活用する「世界の人びとのためのJICA基金」で受け付けています。皆さまのご支援をお待ちしております。

寄付金の使われ方

お寄せいただいた寄付金は、途上国の貧困削減、医療や教育の提供、環境問題の解決などに取り組むNGOの活動に充てられます。各支援活動や寄付金事業収支についてのご報告は、「JICA寄付サイト」で公表します。

寄付の方法

「JICA寄付サイト」からお申し込み下さい。クレジットカードによる決済や、銀行・郵便振込みなどがお使いいただけます。
JICA寄付サイトURL: <http://www.kifu.jica.go.jp/>